年間授業計画　新様式例

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科　　国語　　科目　言語文化

教　科：　国語　　科　目：　　言語文化　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　A 組　～　　C 組

教科担当者：（A組：森谷智美　）（B組：森谷智美　）　（C組：森谷智美　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）

使用教科書：（ 東京書籍『新編 言語文化(現文701)』　　）

教科　国語　　の目標：　国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

【 知　識　及　び　技　能 】実社会に必要な国語の知識や技能を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、国語を尊重する態度を養う。

科目　言語文化　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
一学期	1.古文に親しむ 【知・技】 文語の決まりや古典特有の表現を理解できる。 【思判表】 内容や構成展開を的確に捉えることができる。 【主】進んで音読し説話の面白さを読み取ることができる。	・教科書『新編言語文化』東京書籍 P118 古文に親しむ（冒頭文） P122　『児のそら寝』宇治拾遺物語	○		○	【知・技】 文語の決まりや古典特有の表現を理解している。 【思判表】 内容や構成展開を的確に捉えている。 【主】進んで音読し説話の面白さを読み取っている。できる。	○	○	○	10
	2. 古典文法	P124　古典文法			○	同上	○	○	○	5
	3. 詩歌（俳句） 【知・技】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思判表】 作品に現れたものの見方、感じ方考え方を捉え内容を解釈できる。 【主】進んで俳句の特徴や表現効果を理解しようとする。	P54 『雪の深さを』俳句	○	○	○	【知・技】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思判表】 作品に現れたものの見方、感じ方考え方を捉え内容を解釈できる。 【主】進んで俳句の特徴や表現効果を理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査（期末）						○	○	○	1
二学期	4. 小説 【知・技】 常用漢字の読み書きができる。 【思判表】 内容や構成、展開を的確に捉えることができる。 【主】登場人物の心情変化を読み取り主題について考える」。	P72　『羅生門』芥川龍之介		○	○	【知・技】 常用漢字の読み書きができる。 【思判表】 内容や構成、展開を的確に捉えている。 【主】登場人物の心情変化を読み取り主題について考えている。	○	○	○	8
	5. 物語 【知・技】文語の決まりを理解できる。 作品の文化的歴史的背景を理解できる。 【思判表】 作品の成立背景を踏まえ解釈を深める 【主】進んで音読したり理解しようとする。	P170　『伊勢物語』	○		○	【知・技】文語の決まりを理解できる。 作品の文化的歴史的背景を理解できる。 【思判表】 作品の成立背景を踏まえ解釈を深める 【主】進んで音読したり理解しようとする。	○	○	○	7
	6.紀行 【知・技】わが国の文化と外国文化の関係を理解できる。 【思判表】 作品に現れたものの見方、感じ方考え方を捉え内容を解釈できる。 【主】作者の思いを読み取ることができる。	P190　『奥の細道』松尾芭蕉			○	【知・技】わが国の文化と外国文化の関係を理解しようとしている。 【思判表】 作品に現れたものの見方、感じ方、考え方を捉え内容を解釈しようとしている。 【主】作者の思いを読み取ろうとしている。	○	○	○	7
	定期考査（期末）						○	○	○	1
	7.漢文入門 【知・技】訓読の決まりを理解できる。 【思判表】内容や構成、展開を的確に捉えることができる。 【主】進んで漢文の特色や決まりを理解できる。	P210 『訓読の基本』 P220　故事成語	○		○	【知・技】訓読の決まりを理解している。 【思判表】内容や構成、展開を的確に捉えている 【主】進んで漢文の特色や決まりを理解しようとしている。				10
	8．詩歌（短歌） 【知・技】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思判表】 作品に現れたものの見方、感じ方考え方を捉え内容を解釈できる。 【主】進んで短歌の特徴や表現効果を理解しようとする。	P50 『柳あをめる』短歌	○	○	○					5
	定期考査（期末）						○	○	○	1
										合計 60